

CV-22オスプレイの横田基地への配備について

平成30年4月3日、防衛省北関東防衛局から「米国政府は、太平洋地域における安全保障上の懸念に対応するため、平成29年に発表したスケジュールを変更し、今年の夏頃に、5機のCV-22を横田飛行場へ配備する予定であり、また、配備に先立ち、5機が今週後半に地域の安全保障の訓練のため、横田飛行場に一時的な立ち寄りを行い、更に今後数年間で段階的に計10機のCV-22と約450人の人員を横田飛行場へ配備する予定である」という趣旨の文書による情報提供がありました。

これまでCV-22オスプレイの横田基地配備について私どもは、国の責任において配備及び運用に関する具体的内容や安全性について、関係自治体及び市民の理解が得られるよう十分な説明を行うよう、平成27年5月15日付けで、北関東防衛局長に対し要望し、また、埼玉県基地対策協議会を通じて防衛省などにも要望してきたところです。

しかしながら、オスプレイの安全性に対する市民の懸念が未だ払拭されていない現段階において、地元自治体に担当者から直接かつ詳細な説明もなく、唐突に横田基地への正式配備の発表がなされたことは、誠に遺憾であります。

私どもとしましては、安全保障の重要性は認識しており、併せて沖縄県の負担軽減を実現させていかなければならないことも承知しているところです。

私どもの市域は、横田基地の滑走路の延長線上にあたり、飛行航路下の市民は常に騒音問題や安全への危惧を感じております。自治体の長として、市民生活の安全・安心を守るという立場から、防衛省などに対して、市民への十分な説明責任を果たすこと及びCV-22オスプレイの安全性に関する正確な情報提供を行うよう強く求めていきます。

平成30年4月6日

飯能市長 大久保 勝

入間市長 田中 龍夫

日高市長 谷ヶ崎 照雄